

授業科目 がん看護学特論Ⅱ	科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 後期
科目責任者	鳴井ひろみ	
担当者	鳴井ひろみ、浅野美知恵、山崎智子、泉美紀子、鈴木恵里子	
<p><b>1. 科目のねらい・目標</b></p> <p>がん患者の複雑な健康問題に対して包括的な支援を提供できるための援助方法を探究する。診断・治療の原理を基に、がんの予防、早期発見、病名・予後告知、治療の選択、治療過程（End of Life Care まで）に伴う患者・家族の反応に適切に対処できるための身体的管理・看護援助を学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診断・治療過程における患者・家族の特徴を説明できる。</li> <li>2) がんの予防からがん罹患後の経過（診断期、治療期、再発・進行期、終末期）に応じた看護援助方法を探究できる。</li> <li>3) がん患者・家族の援助に活用可能な資源を説明できる。</li> <li>4) チーム医療における多職種との協働やケアのコーディネート役割を説明できる。</li> </ol>		
<p><b>2. 授業計画・内容</b></p> <p>&lt;がんの予防、再発・転移の早期発見における看護援助&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1回：がんの予防・早期発見における看護援助（健康教育）（鳴井）</li> <li>2回：がん患者の再発・転移の早期発見における看護援助（対処能力向上）（鳴井）</li> </ol> <p>&lt;病名告知・病状説明と治療の意思決定を支える看護援助&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3回：病名告知・予後告知を受けるがん患者・家族のアセスメントと看護援助（鳴井）</li> <li>4回：治療の選択・意思決定におけるがん患者・家族のアセスメントと看護援助（鳴井）</li> </ol> <p>&lt;がん治療期にある患者への看護援助&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5回：手術療法を受けるがん患者・家族のアセスメントと看護援助（浅野）</li> <li>6回：化学療法を受けるがん患者・家族のアセスメントと看護援助（鳴井）</li> <li>7回：放射線療法を受ける患者・家族のアセスメントと看護援助（鈴木・鳴井）</li> <li>8回：がん治療に伴う倫理的問題および調整（浅野）</li> </ol> <p>&lt;がん患者・家族のセルフケアを高める支援&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9回：がん患者の長期的支援① 情報支援、コミュニケーションスキル（鳴井）</li> <li>10回：がん患者の長期的支援② サポートグループによる支援（鳴井）</li> </ol> <p>&lt;終末期にある患者・家族への看護援助&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11回：終末期にある患者への看護援助（身体的苦痛と看護援助）（浅野）</li> <li>12回：終末期にある患者への看護援助（心理的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルペインと看護援助）</li> <li>13回：終末期にある患者の家族、遺族に対する看護（山崎）（浅野）</li> </ol> <p>&lt;がん医療におけるチーム医療による支援&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14回：がん医療におけるチーム医療とがん看護の専門性（鳴井）</li> <li>15回：がん医療における地域との連携と社会資源の活用（泉）</li> </ol>		
<p><b>3. 教科書、参考書</b></p> <p>講義の中で適宜紹介する。</p>		
<p><b>4. 成績評価方法</b></p> <p>講義・ゼミへの取り組み状況 40%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 60%で総合的に評価する。</p>		
<p><b>5. 受講要件</b></p> <p>がん看護専門看護師コースの学生は必修</p>		
<p><b>6. 社会人学生に対する配慮</b></p> <p>相談があれば個別に対応する。</p>		
<p><b>7. その他</b></p> <p>事前に提示する課題・資料を参考に自己学習して臨むこと。</p>		